奥入瀬・十和田湖地域の新たなステージ
～まるごと自然博物館の実現～

「奥入瀬ビジョン」（平成３０年６月）**骨子**

国道１０３号 奥入瀬（青橅山）バイパス完成後の持続可能な観光を目指すためには、奥入瀬・十和田湖地域の高付加価値化や、これまでの「通過型」の観光から、歩く奥入瀬といった「オールシーズン滞在型」の観光へ転換していく必要がある。

「奥入瀬ビジョン」の実現に向けた議論を深化・加速させ、持続可能な地域経済を構築するため、複数ある関係組織の集約化・合理化を図り、官民一体による新たな体制を構築すること、また、以下の３つの視点が網羅された事業計画を策定し、実施段階へと移行していくことを委員会として提言します。

✓ 人と自然の共存・共生

奥入瀬ビジョンで示す地域の目指す姿「人と自然の共存・共生」を実現するため、環境評価指標等を設定し、取組の進捗を管理していく必要があります。

✓ まるごと自然博物館の実現

SDGsの視点に基づき誰でも楽しめる奥入瀬・十和田湖地域を目指すことが重要です。奥入瀬のすばらしい自然環境を保全し、その魅力を最大限体感していただくため、モビリティサービスの導入などによる、入域料等の議論を含む持続可能な「まるごと自然博物館」を目指す必要があります。

✓ 地域が潤う滞在型観光の推進

奥入瀬・十和田湖地域本来の魅力を、ゆっくり満喫してもらえるような、地域が潤うオールシーズン滞在型観光が必要です。

令和５年９月４日

奥入瀬渓流利活用検討委員会

委員長 石田東生